



レスポンシブル・ケア

信越化学工業株式会社

代表取締役社長 斉藤 恭彦 殿

「信越化学サステナビリティレポート2025」

第三者検証 意見書

2025年6月27日

一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンシブル・ケア検証センター長

石井 浩

■ 検証の目的

本検証は、信越化学工業株式会社が作成した「信越化学サステナビリティレポート 2025」(以後、報告書と略す)に記載された下記の事項について、レスポンシブル・ケア検証センターが化学業界の専門家としての意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性および数値の正確性について
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンシブル・ケア活動(以後、RCと略す)およびサステナビリティ活動の内容について
- 4) 報告書の特徴について

■ 検証の手順

- ・ 本社において、各サイト(事業所、工場等)から報告される数値の集計方法の合理性および数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者および報告書作成責任者に質問すること、ならびに彼らより資料提示と説明を受けることにより行いました。
- ・ 直江津工場の検証は、本社と直江津工場をつないだWeb会議で、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性、および数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。調査は、各業務責任者および報告書作成責任者に質問すること、証拠となる資料提示・説明を受けることにより行いました。
- ・ 数値および記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性および数値の正確性について
 - ・ 本社および直江津工場では、換算係数等を組込んだ自動集計システム(Eco Track)を昨年からの全面採用しています。この集計システム上で、入力データの段階承認、異常値入力時の警告表示、数値変更時の適正な方法と変更を認識させるセルの着色化等を実施し、数値の正確性を確保されており、数値は正確かつ効率的に集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
 - ・ 報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは表現の分かりやすさに関し、若干の指摘をしましたが、現報告書では修正されており、現在修正すべき重要な事項は認められません。
- 3) RC活動およびサステナビリティ活動の内容について
 - ・ 社長をトップとするグループ全体のサステナビリティ委員会で、サステナビリティの基本方針および「信越化学グループのサステナビリティの重要課題」の見直しを逐次行い、課題ごとに「リスクと機会」を明示し、グループを挙げて全ての課題に積極的に取り組んでいることを評価します。
 - ・ 特に2050年カーボンニュートラル達成に向けた温室効果ガス削減をグループ全体に展開し、迅速かつ効率的なデータ集計、また今後の計画の公表等、積極的に推進していることを高く評価します。
 - ・ 安全活動として種々取り組む中で、HHK提案(ヒヤリハット・気掛かり提案)やリスクアセスメント等の活動は、全工場幅広く地道に展開し、ハードおよびソフトを合わせ具体的な改善実績に結びつけていること、実績を公表していることを評価します。
 - ・ 本社による環境保安監査について、通常監査に加え、時機に即したテーマを設けた「特別監査」を実施し、タイムリーに工場での取り組み改善を促している実態を確認しました。
 - ・ 危険作業体験教育に対するVR教育の高度化として、直江津工場では単なるVR体験に終わらず、「過去の事故の復習、VR疑似体験、グループ討議の実施」を実践し、受講者にワークシートへ実体験を記載させ、自職場作業への落とし込みを考えさせて教育のレベルアップを図っている。この取り組み成果を確認し、他工場でも展開している点を高く評価します。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・ 今年度の報告書では、特集として「Our Sustainable Products」にて社会のサステナビリティに貢献する製品を判りやすく紹介し、「Our Sustainable Act」にて世界のグループ従業員の取り組みをインタビュー記事で紹介する等、広範囲のステークホルダーに向けて、内容を充実させています。